

## 2 バス利用の現状(Q1)

### (1) バス利用者はどのくらいいるのか

- バス利用者の割合は、青梅市全体で 21%と、駅から離れた地区で高くなっている。
- 利用頻度別にみると、週5日以上利用する人は青梅市全体で 3%と、利用頻度が低いほどバス利用者の割合は大きくなる。

図 地区別のバス利用率  
(バス利用者数／世帯人数)

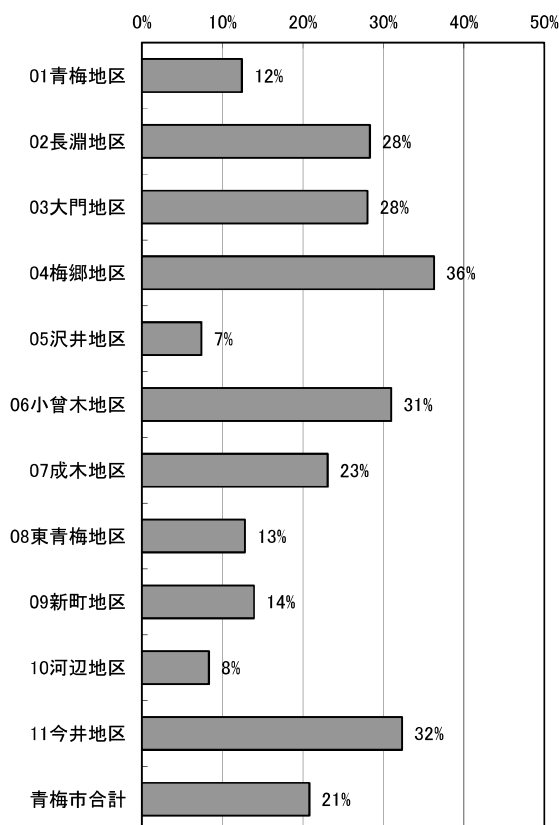


表 地区別のバス利用率  
(バス利用者数／世帯人数)

	世帯人数	バス 利用者数	バス 利用率
01 青梅地区	346	43	12%
02 長淵地区	487	138	28%
03 大門地区	428	120	28%
04 梅郷地区	281	102	36%
05 沢井地区	108	8	7%
06 小曾木地区	71	22	31%
07 成木地区	65	15	23%
08 東青梅地区	422	54	13%
09 新町地区	431	60	14%
10 河辺地区	325	27	8%
11 今井地区	235	76	32%
青梅市合計	3199	665	21%

図 利用頻度別のバス利用率

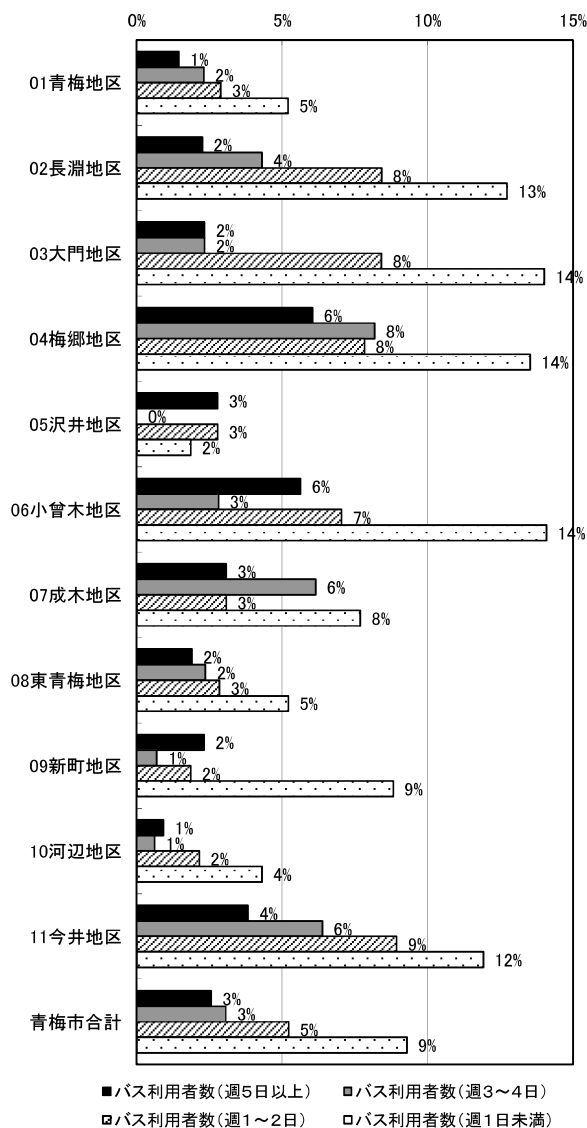
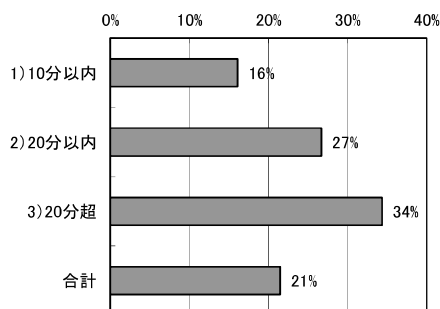


図 鉄道駅への所要時間別バス利用率



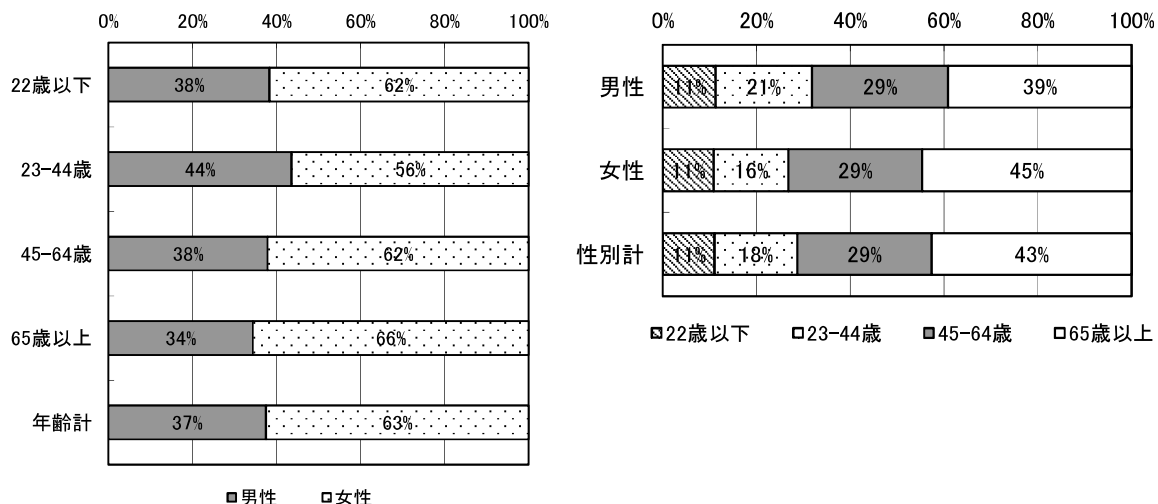




## (2) バス利用者はどのような人か

- バス利用者は、どの年代も概ね4：6で女性の割合が大きい。
- バス利用者は、男性・女性とも高齢になるほど割合が大きくなる。

図 バス利用者の年齢階層と性別構成



- バスの利用目的は、高齢になるほど、買物や病院目的の利用割合が高くなっている。
- バス利用頻度は、通勤・通学は週5日以上、買物・病院は週1～2日以下、その他は週1日未満の割合が大きく、バス利用形態は目的・利用頻度によって大きく3つのパターンに分かれる。

図 年齢階層別のバス利用目的

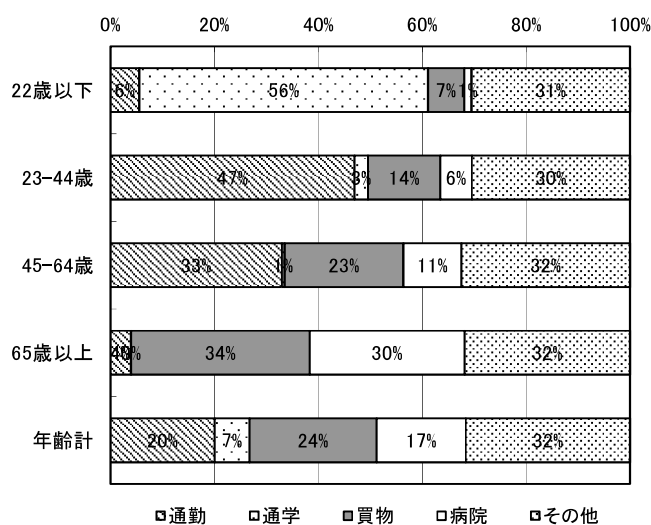
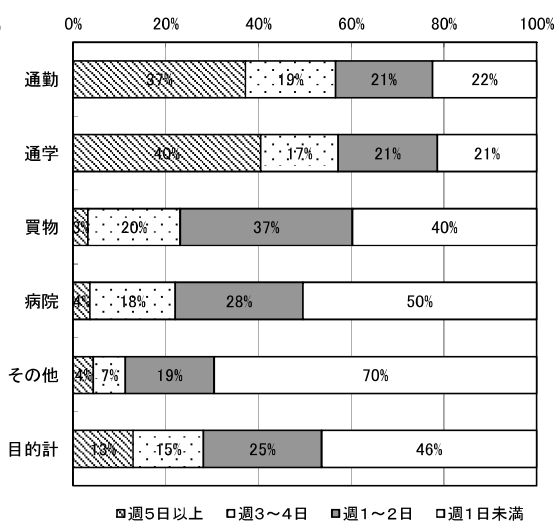


図 利用目的別のバス利用頻度



- 高齢者はバス利用率は高いが、利用頻度は低い。

図 年齢階層別のバス利用率

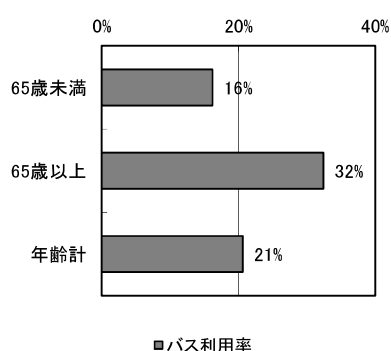
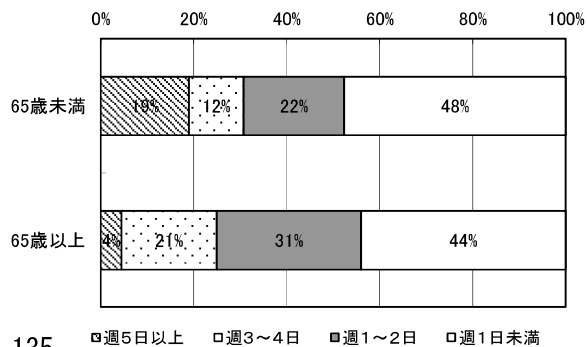


図 年齢階層別のバス利用頻度



### (3) バス利用者がいる世帯とない世帯の違いは何か

- バス利用者がいる世帯とない世帯は、概ね4:6の割合となっている。
- バス利用者がいる世帯は、高齢者世帯、自動車非保有の割合が高くなっている。
- バス利用者がいない世帯は、多くはバス停から離れているわけではなく(バス停が近くにない世帯は1割程度)、またバス停を知らないという割合が高くなっている。

図 バス利用者の有無別世帯数

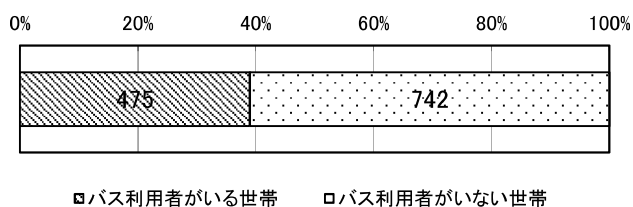


図 世帯構成

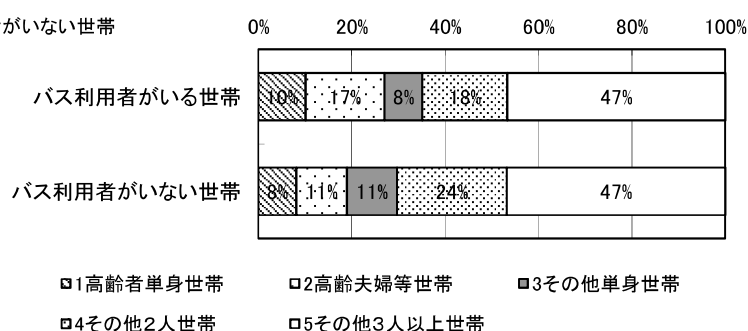


図 自動車保有状況

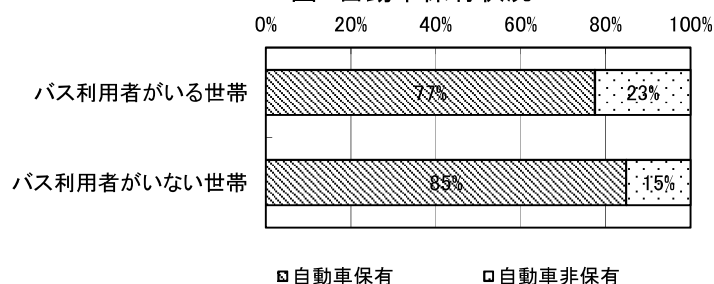


図 バス停近接性

